

一、単元名 松浦寿輝「映像体験」の現在」

二、単元目標

- ・ことばの使い方に注意し、書かれている主張を読み取る。
- ・読み取ったことで得られた視点をもとに、複製技術が当たり前のものと化している現代、本物／偽物、現実／映像、オリジナル／コピーなどの概念について、考えを深める。
- ・考えたことを話し合い、他者の意見を聞き、自分の考えも深める。またそれを言語化して伝えようとする。

三、評価基準

- ・ことばの使い方に注意し、書かれている主張を読み取ることができたか。
- ・読解を通して自分の考えを持ち、他者との意見交換を通してさらに考えを深め、発信することができたか。

四、教材観

本教材は、松浦寿輝『青の奇蹟』（二〇〇六年 みすず書房）に収録されたエッセイである（冒頭が一部省略されている）。筆者松浦寿輝は、小説家、詩人であるとともに文学の研究者、批評家として著名な作家である。ベンヤミンやロラン・バルトなどの現代思想の粹組みと、ヨーロッパの視覚文化の実証的な研究から、視覚文化と視覚媒体との関係、歴史を明らかにするという研究成果をあげており、特に評価が高い。本教材の文章もそれに連なるものと言えるだろう。ただ、今回の文章に限っていえば、映像文化についての筆者独自の意見が論理的に述べられているとは言い難い。筆者の膨大な知識や研究成果に裏付けられた随想だからこそ、表現も独特で抽象レベルが高く、生徒にとってはわかりづらい文章であると考えられる。

たとえば、「映像文化」の時代に入ってイメージがいくらでも反復可能・再現可能になってきたとき、映像から失われていったのはこの「アウラ」である。反復不可能な、すなわち「かけがえのない」イメージのみが帯びているこの「アウラ」の輝きに対する繊細な感性を、我々は保持しなければなるまい。」という一文を取り出して考えてみる。「かけがえのない」という意味が「自分にとってかけがえなし」という意味であれば、それは対象の反復可能／不可能に関係なく、どんなものに対しても起こりうる。だが一方で、複製技術の時代に映像が反復可能になったから「アウラ」が失われたと言うなら、「アウラ」とは反復不可能なものにまとうもの、ということになる。このときの「アウラ」（121ページ11行目）と、「かけがえのない」イメージ」が帯びているものだという時の対象の反復（不）可能性が不問なはずの「アウラ」（12行目）は意味が違うはずだ。前者の「アウラ」は反復不可能、一点の「ありがたみ」のことなのだが、後者の「アウラ」はカギ括弧つきの「かけがえのない」さ。自分にとってかけがえのないもの、という意味である。ここでは「アウラ」という一見難解な用語によって、意味がずらされている。

筆者の主張は、「本物」の「ありがたみ」がなくなってしまったから、複製の中にも「ありがたみ」を感じられるようであろう、というものだとはとまらずに理解できる。つまり、反復可能なものばかりの中でも、「反復不可能性」を感じられるようであろう、ということである。右のようにこの文章には単純には読解できない部分が存在すると言えるが、とはいえ、このような文書を読解できる力を生徒につけてもらうことは必要なことである。随想はむしろ評論文と違う（論理性の重視ではない）ことによって、評論文とは別の価値や機能を持つことができる。「随想」と呼ばれる文章では、論理を重視しないことによって、筆者の見解を筆者ならではの表現で、のびのびと述べることができ、意見や思想をダイナミックに読者に伝えられる（可能性が高い）という特長がある。

「意見を文章につづる」または「伝える」ことを考えると、論理的に優れているかどうかと、その達成が必ずしも相関するとはかぎらない。独創的な語り口や表現、具体例を用いて意見が綴られた文章であることは、「随想」のおもしろさ、特長と言ってよいだろう。

授業ではまず書かれていることを読み、具体例と主張を整理する。整理のしかたの一つである二項対立を抽出する訓練ができるのも、本教材を扱う利点のひとつである。

題材について、生徒は複製技術と聞いてもピンとこないかもしれない。身の回りの複製技術は、おそらく多くの生徒にとって当たり前のものであるだろう。しかし少し前まではそうではなかった、〈複製〉とは近代化にもなう技術である、ということ自体、生徒にとっては新鮮な驚きとなるのではないか。日頃あまりにも当たり前に感じていることを相対化することで、日々の生活について考える視点が広がる、というのも評論文や随想を読むことで得られるものである。

また、関連する話題をもつ文章として、東浩紀『動物化するポストモダン オタクから見た日本社会』（二〇〇一年一月 講談社現代新書）を副教材として取り入れる。オリジナル／コピーという概念が、他の評論でも言及される広がりのある話題であることを感じてもらうとともに、「映像体験」の現在」に対する生徒の考えも深めてもらいたい。また、同じ問題意識に裏付けられた文章として、『青の奇蹟』の中の他の随想「もう一つのスローモーション」を読む。一回性や反復不可能性といったキーワードを頼りに、教科書本文だけではわからない語・議論の文脈を知ってもらい、本文の理解を深めてもらいたい。

最後の意見文は、学習指導要領解説の国語総合「B 書くこと」(2) 言語活動例 イ 説明や意見などを書く言語活動 に当たる。意見の内容は問わないが、本文の内容を自分のことばでまとめ、その上で自分の意見を書くよう指示し、それができているかを評価する。本文の「かけがえのない視聴覚映像」「豊かなイメージ」「貧しいイメージ」について自分なりに具体的に考え書いてもよいし、筆者の主張や、文章の論理について批判的に書く生徒がいてもよい。

時間	活動	評価	指導事項（指示・発問）	予想される生徒の反応	留意点
10	<ul style="list-style-type: none"> 本文を取り巻く情報、前提知識（パラテキスト）の確認。随想というジャンルについて。 		<ul style="list-style-type: none"> 題名と筆者名を黒板に書く。 教科書でのジャンルが「随想」であることを確認する。↓「随想」について古典随筆などと関連させながら把握してもらおう。（随想とは体験をもとに意見や思いを書いたものである。まずは書かれたことを読み取ろう。） 著者について説明。本教材は体験について書かれてはいないが、背景にはヨーロッパの視覚文化を研究してきた著者の知識や体験があることを確認する。『青の奇蹟』を含む著書の紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> 枕草子（清少納言）、方丈記（鴨長明）、徒然草（兼好法師） 	
20	<ul style="list-style-type: none"> 著者について確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 著者について説明。本教材は体験について書かれてはいないが、背景にはヨーロッパの視覚文化を研究してきた著者の知識や体験があることを確認する。『青の奇蹟』を含む著書の紹介。 		
25	<ul style="list-style-type: none"> 「映像」について現在の生徒の雑感を確認。本文理解への足がかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問に対して積極的に考えているか。意見交換を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「発問」 「映像、というとなんかものか思い浮かびますか？」 ☆まず個人で考え、ノートに書きせる時間を取る（二分） ☆隣同士で意見を交換する（一分） ☆写真も映像に含まれることを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 動画 (YouTube・ニコニコ動画)、映画、テレビ、アニメ 	<ul style="list-style-type: none"> 「媒体」「現象」「現実」「認識」などの用語は丁寧に確認していく。 「媒体」≡メディア。何かを伝える仲介となるもの。媒介するもの。 「現象」≡立ち現れること。思想哲學的な用語でもある。（ここでは「認識」に意味が近い。
35	<ul style="list-style-type: none"> 第一段落を読む。 本文読解ではブロックごとに音読↓とはどう読むか、このブロックから読み取ればいいことは何か、発問・理解していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む／聞く姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指示】本文を読んでいきましよう。第一段落を○○さん音読してください。聞きながら、どんなことを読み取ればよいか考えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む生徒を指名。音読中は生徒の様子を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「認識」という語が、ここでは「現象」つまり現実として見えるもの、という意味に近いことを確認する。
50	<ul style="list-style-type: none"> 本文読解ではブロックごとに音読↓とはどう読むか、このブロックから読み取ればいいことは何か、発問・理解していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 【発問】 「映像媒体による認識」とはつまりどういうことでしょうか？ ☆書かれているメリット／デメリットを挙げさせ、具体的にどういうことなのか問う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「メリット」…3D映画、アクション、地球の映像 世界各地の映像、ミクロの世界、スローモーション、早送り、コマ送り。 「デメリット」…ゲームの身の動き、遠く離れた地域の人へのイメージ、ニュースの報道による災害や紛争のイメージ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「認識」という語が、ここでは「現象」つまり現実として見えるもの、という意味に近いことを確認する。 メリットとして言えることは、人間の肉眼≡身体的な限界を超えたものであることを確認する。 視覚文化の可能性を広げるメリットがあるが、見ることができるメディアの映像は、何らかの視点によるバイアスがあり、それをここではデメリットとしていることを確認する。

時間	活動	評価	指導事項 (指示・発問)	予想される生徒の反応	留意点
7	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段落&第三段落の読解。 ・第二段落の音読 (指名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む／聞く姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「現実の「似姿」としてのイメージが、しかし現実そのものよりもっと「現実的」な何かとして機能し、翻って現実それ自体に影響を及ぼす」とはどのようなことか？ ↓まずは、それが「映像文化」体験であることを確認↓具体例としてある写真から考えていく。↓第三段落へ ・写真の発明について触れる。(見ている世界を写し取る技術の衝撃、今はスマートフォンですぐにそれを手のひらに収め、発信することもできる。) ・【発問】具体例としての写真が、「現実的」な何かとして機能し、翻って現実それ自体に影響を及ぼす」とすると、それはどういうことだろうか？ ☆ノートに書かせる↓個人で解答を書く↓空気が停滞していたら話し合わせる (二分) ・同じことの例で、テレビではどうか？ と尋ねてもよい。 ・写真の具体例で挙げたような (自撮り・プリクラ) その都度の認識だけでなく、「人々の感性が決定的に変わっていった」と本文にあることに注目し、技術の変化が人々の感性そのものも変える、ということを考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースや教科書などで見た事件の写真を見て、その事件に対するイメージが決まってしまうこと。○○とはこういうものだ、という現実認識が定まってしまうこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「現実の「似姿」としてのイメージ」をまずここでは確認。現実ではない、しかし似ている、というニュアンス。しかし鉤括弧がつくことで現実に近い、という特別な意味になる。 ☆鉤括弧の用法についても触れる。 ・今や当たり前となっている写真・複製技術が発明であることに気づかせたい。(カメラを一から作るうとしてもできない。)
15	<ul style="list-style-type: none"> ・第三段落の音読 (指名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む／聞く姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「現実的」な何かとして機能し、翻って現実それ自体に影響を及ぼす」とすると、それはどういうことだろうか？ ☆ノートに書かせる↓個人で解答を書く↓空気が停滞していたら話し合わせる (二分) ・同じことの例で、テレビではどうか？ と尋ねてもよい。 ・写真の具体例で挙げたような (自撮り・プリクラ) その都度の認識だけでなく、「人々の感性が決定的に変わっていった」と本文にあることに注目し、技術の変化が人々の感性そのものも変える、ということを考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースや教科書などで見た事件の写真を見て、その事件に対するイメージが決まってしまうこと。○○とはこういうものだ、という現実認識が定まってしまうこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「現実そのものよりもっと「現実的」な何かとして機能し、翻って現実それ自体に影響を及ぼす」については、第三段落以降で検討。 ☆具体的にはミクロの世界の認識、住んでいない地域のことなど、授業冒頭で確認した「メリット」として挙げられていたことと重なることを指摘 (ノート参照)。 ☆写真の具体例では、盛った自撮り、プリクラの画像が、いくら本物と違って、その人に対するイメージとして、現実的なものとして機能してしまっていることを挙げる。
30	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容について発問。話し合いと解答。 ・積極的に書いて／話せているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「現実的」な何かとして機能し、翻って現実それ自体に影響を及ぼす」とすると、それはどういうことだろうか？ ☆ノートに書かせる↓個人で解答を書く↓空気が停滞していたら話し合わせる (二分) ・同じことの例で、テレビではどうか？ と尋ねてもよい。 ・写真の具体例で挙げたような (自撮り・プリクラ) その都度の認識だけでなく、「人々の感性が決定的に変わっていった」と本文にあることに注目し、技術の変化が人々の感性そのものも変える、ということを考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースや教科書などで見た事件の写真を見て、その事件に対するイメージが決まってしまうこと。○○とはこういうものだ、という現実認識が定まってしまうこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「現実そのものよりもっと「現実的」な何かとして機能し、翻って現実それ自体に影響を及ぼす」については、第三段落以降で検討。 ☆具体的にはミクロの世界の認識、住んでいない地域のことなど、授業冒頭で確認した「メリット」として挙げられていたことと重なることを指摘 (ノート参照)。 ☆写真の具体例では、盛った自撮り、プリクラの画像が、いくら本物と違って、その人に対するイメージとして、現実的なものとして機能してしまっていることを挙げる。

時間	活動	評価	指導事項 (指示・発問)	応	留意点
35	<ul style="list-style-type: none"> ・発問↓ 個人で二分全体で三分 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む／聞く 姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【発問】前回の授業の復習。「そうした中」P119 L8とあるが、どういう中だと読み取れるか。第三段落までの内容から、本文に即して答えてください。 ← 「こういうことが起きてきたのか」がこのあと書かれている。 ・絵画 (オリジナル) ⇔ 写真という複製技術 (コピー) という対比 (二項対立) を確認する。(写真という複製技術がくく可能になる、とあります。) ・【指示】「こういうことが起きていたのか」、第四段落と第五段落から、本文に即して一文でまとめてください。(第六段落冒頭に「このような状況」とあることにも注目を促し、どういう状況なのか、と問う。) ・【発問】「安価なイメージ」とは、どういうことか。 (時間があれば具体例を聞く。) 	<ul style="list-style-type: none"> (模範) 複製映像技術の発明によって、我々の現実そのものや感性が変わってきただ中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三段落の「複製映像技術」の「複製」に注目させる。(複製⇨コピー)
50	<ul style="list-style-type: none"> ・第五段落の音読 (指名)。 ・四・五段落の内容を一文にまとめる。個人で五分、隣と話し合い三分、発表と説明五〜七分。 ・本文理解 (安価なイメージ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む／聞く 姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【発問】「安価なイメージ」とは、どういうことか。 (時間があれば具体例を聞く。) ・筆者は、「こういう状況の中では、生き生きとした現実の手応えが忘れられてゆかざるを得ない。」と言っている。【発問】「生き生きとした現実の手応え」とは何か。 ↓原っぱで転げ回る、香りを吸い込む、体がぶつかり合う、などの身体的な体験。(⇨肉眼などの人間の身体の限界に関わる体験) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(模範) ただ一点の本物だったはずの映像が無数に反復され、流通するようになり、安価なイメージが至る所に見いだされるという状況。 ・貴重さが無い、故に価値が低い映像。 ・聖なるマリア像が、今や世界中どこでもいつでも見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここでは本文のことばそのままよい。次にそれがどういうことなのか理解できているか確認する。 ・安価⇨価値が低い、安っぽい、とここでは書かれていることを確認する。ここでは複製映像は安価なイメージであると書かれているが、「動ポモ」のようにオリジナル／コピーに優劣関係はもはやないとする考え方も後に紹介する。 (・なぜ「不幸」なのか、と聞かれたら…人間の身体の限界に関わるような身体的な体験をしないと、現実だと感じられるものが人間の知覚とずれていくから、というロジック?)
40	<ul style="list-style-type: none"> ・第四段落の読解。音読 (指名)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む／聞く 姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真という複製技術 (コピー) という対比 (二項対立) を確認する。(写真という複製技術がくく可能になる、とあります。) ・【指示】「こういうことが起きていたのか」、第四段落と第五段落から、本文に即して一文でまとめてください。(第六段落冒頭に「このような状況」とあることにも注目を促し、どういう状況なのか、と問う。) ・【発問】「安価なイメージ」とは、どういうことか。 (時間があれば具体例を聞く。) 	<ul style="list-style-type: none"> (模範) 複製映像技術の発明によって、我々の現実そのものや感性が変わってきただ中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三段落の「複製映像技術」の「複製」に注目させる。(複製⇨コピー)
時間	活動	評価	指導事項 (指示・発問)	応	留意点

時間	活動	評価	指導事項(指示・発問)	予想される生徒の反応	留意点
10	<ul style="list-style-type: none"> ・第七段落と第八段落の音読(指名)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む／聞く姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【発問】「映像だけが現実」「映像こそ現実的であり、いっそ現実的なのは映像だけ」とはどういうことか。(考えながらノートにメモさせる時間を取る(一分)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(解答例)我々が思う現実が、映像媒体を通じたものに強く影響されたものになり、映像媒体による認識がそのほとんどになるということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第四・五段落で読んだ本物／複製、オリジナル／コピーの対立と関連させる。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例を聞く。隣同士で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に話し合っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ↓実際にあり得ないことなどで、映像で繰り返し見た、リアルに感じるものの、具体例を考えてもらう。(映像が現実になる、ということの意味を考える。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判官の判決のときのふるまい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現実も、人間の感性(なにをリアルに感じるか)や知覚に左右されることを考えさせたい。(人間の目が赤外線を捉えられるとしたら…)・P120「こういう時代のただ中で、我々はどうのように生きていったらいいのか」ということに注目を促す。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・第七段落のまとめ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・【第七段落】の後半から、どういうことを読み取ればよいですか? 「こういう時代」に「どう生きていったらいいのか」、七段落ではどのように書かれているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「オリジナルへ戻れ!」という生き方は時代の流れと逆行していて難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こういう時代のただ中で、我々はどうのように生きていったらいいのか」ということに注目を促す。
30	<ul style="list-style-type: none"> ・第八段落の音読(指名)。内容確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む／聞く姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【発問】第八段落の冒頭に「もう一つの道」とある。それはどういうことだと書かれているか(まずは本文に即して)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「イメージそのもののただ中で、空虚ならざる映像のありかを探」ること。 	
40	<ul style="list-style-type: none"> ・第九段落の音読(指名)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む／聞く姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ↓のちに「アウラ」について補足。 ・「反復不可能」と書かれていることに注目し、ここでの「豊かなイメージ」はつまりどのようなことか? と考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アウラ」をまとめた映像。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆「かけがえなく貴重」＝一回性
50	<ul style="list-style-type: none"> ・「アウラ」について、資料を使って理解する。授業者の指示で音読する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・補足資料を音読させながら、「アウラ」と「オリジナル」「一回性」の関係、語の文脈を把握してもらう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・『高校生のための現代文キーワード100』から、「アウラ」のページを配布。「アウラ」と「一回性」について説明する。

四時間目

時間	活動	評価	指導事項（指示・発問）	予想される生徒の反応	留意点
5	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のノートに補足を書き込む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始直前に、前回の板書を簡略的に書き、授業開始後付け足す部分を色チョークで書き、生徒に書くよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ペンで写す必要はないと注意する。 ・前回配布した資料（裏面）について補足説明する。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・『動物化するポストモダン』から授業者が抜粋したものを読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に読もうとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抜粋の中の、特に線が引かれているところに注目して読むよう指示する。また、補足プリントを配布し、穴埋めをしながら引用文の抑えてほしい内容を整理して読むように指示する。 		
40	<ul style="list-style-type: none"> ・穴埋めの発問と回答 		<ul style="list-style-type: none"> ・「シミュラクル」などの用語は覚えなくていい（用語を覚えてほしいわけではない）ことを伝え、ここでは「オリジナルとコピーの区別が薄くなった」という社会形態と、人々の感性が変化した、という話が、「映像体験」の現在」本文と似ている、関連して読めることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ポストモダン」「オリジナルとコピーの区別」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章理解のために、本文そのものを追うだけでなく、その文章が生まれた背景や文脈、語句の使用されてきた文脈を知ることが効果的な場合もある、ということ伝えたい。 ・本教材の随想文は、筆者の抽象的な表現、独自の言い回しと具体例によって生徒が身近な問題として立ち返りにくい特徴があると考えられる。二次創作というコピー、「萌え要素」が生まれる基盤としての複製時代という話から、身近な話題として考えを広げてほしい。
50	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめを聞き、プリントを埋める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今回この補足資料を提示したのは、「映像体験」の現在」教科書本文に書かれている、「豊かなイメージ」についての説明（自分にとってかけがえのない・反復不可能）のうち、「自分にとって」というところがなぜ出てくるのか、をつかんでほしいからであること、それが映像に限った話ではなく、複製技術にともなう近代化・ポストモダン化の中で、いろんな面で起きたことであること、を説明する。 		

時間	活動	評価	指導事項（指示・発問）	予想される生徒の反応	留意点
5	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のプリント『動物化する…』のラストモダン』の最後の穴埋めをし、前回の内容を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに必要なことを書き、話を聞いているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『動物化する…』と『映像体験』の現在の内容が重なり合うところを説明し、『動物化する…』を読んだ趣旨説明をする。（豊かなイメージの二つの要素…自分にとって・反復不可能な、うちの、「自分にとって」がどうして付くのかを説明するため） 	<ul style="list-style-type: none"> ①スローモーションによって遅さの体験が可能になった。②「一度かぎり不可逆的に空間を走り抜ける運動」③「オリジナルがただ一点あるだけだった前近代へ戻れと言っても、なかなかそういうわけにはゆかないだろう」④118ページの「デメリット」、「今日のような映像の氾濫状態になれてしまふと、自分が実際に体験したわけではない出来事を、映像を見ただけであたかも全部わかってしまったかのように考えがち」 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回必要なのは、前回の穴埋めのプリントと教科書であることを伝える。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・「もう一つのスローモーション」を読む。範読を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に聞き・読もうとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もう一つのスローモーション」本文を配布し、授業者が範読する。途中で区切りながら、板書して解説しながら読んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①スローモーションによって遅さの体験が可能になった。②「一度かぎり不可逆的に空間を走り抜ける運動」③「オリジナルがただ一点あるだけだった前近代へ戻れと言っても、なかなかそういうわけにはゆかないだろう」④118ページの「デメリット」、「今日のような映像の氾濫状態になれてしまふと、自分が実際に体験したわけではない出来事を、映像を見ただけであたかも全部わかってしまったかのように考えがち」 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題は解かなくてよいので、範読を聞き、内容を理解しようとしてほしいことを伝える。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・補足プリントを用いて、「もう一つの…」の内容を理解していく。その中で、「映像体験」の現在」と内容が重なることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いについて考え、答えを出せているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いと解答。四は生徒たちが話し合う時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①スローモーションによって遅さの体験が可能になった。②「一度かぎり不可逆的に空間を走り抜ける運動」③「オリジナルがただ一点あるだけだった前近代へ戻れと言っても、なかなかそういうわけにはゆかないだろう」④118ページの「デメリット」、「今日のような映像の氾濫状態になれてしまふと、自分が実際に体験したわけではない出来事を、映像を見ただけであたかも全部わかってしまったかのように考えがち」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じ筆者だから同じだ」という考え方は必ずしもそうとは限らない（人は変化するので）が、今回は参考にする、ということ伝える。
30	<ul style="list-style-type: none"> ・補足プリントを用いて、「もう一つの…」の内容を理解していく。その中で、「映像体験」の現在」と内容が重なることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いについて考え、答えを出せているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【プリント下部解説】最後の主張「性急なスローモーション」は、「ただ単にそれが起きたという利那の体験」のことであり、それが（一回性↓不可逆性↓反復不可能性）として教科書本文と重なることを示す。 ・プリントに引用した箇所から、〈身体性〉と〈一回性〉の問題を、この筆者松浦寿輝は問題意識として持っているのではないかと投げかける。 ← ・教科書本文のタイトルを確認し、映像体験の話であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①スローモーションによって遅さの体験が可能になった。②「一度かぎり不可逆的に空間を走り抜ける運動」③「オリジナルがただ一点あるだけだった前近代へ戻れと言っても、なかなかそういうわけにはゆかないだろう」④118ページの「デメリット」、「今日のような映像の氾濫状態になれてしまふと、自分が実際に体験したわけではない出来事を、映像を見ただけであたかも全部わかってしまったかのように考えがち」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じ筆者だから同じだ」という考え方は必ずしもそうとは限らない（人は変化するので）が、今回は参考にする、ということ伝える。

時間	活動	評価	指導事項（指示・発問）	予想される生徒の反応	留意点
50	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに沿って、自分にとってのアウラのある映像体験を考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・例を挙げた後、プリントに書き込むよう指示する。その後周りの人の意見を聞き合うよう指示する。一人で考える時間↓隣と話し合う時間。 ・切り替えるタイミングで、次のプリントを配る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の合宿で見たきれいな星空の光景、好きなアイドルのテレビの映像、宇宙の様子を表したCG映像、など 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例を挙げながら、自分にとって・反復不可能な体験であることが大切で、対象は複製されたものでもよいこと、目に映る光景でもいいが物体ではなくて、「イメージ」であるような光景にするよう伝える。 ・宇宙の映像に感動する、など、映像が実体験になるようなもの、生きてる!!! と感じられるような…と説明する。 ・個人的なエピソードとなるので、クラス全体での共有はしない。
35	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに沿って、本文の主張を一文で自分の言葉で（本文の言葉を使ってもよい）まとめる。本文に対する自分の意見を書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布し、書かせる。時間を取った後、模範的な想定を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「映像文化」の時代においては「アウラ」（反復不可能なもの）の輝きに対する感性を保持し、豊かなイメージと貧しいイメージとを選り分ける感受性を研ぎ澄ますことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模範としては、「反復可能なものばかりの現代においても、自分にとって反復不可能な映像体験をすべきである」などを想定している。 ・プリントを回収するため、生徒にどう書いたかはここでは聞かない。
43	<ul style="list-style-type: none"> ・五時間の授業全体を通しての、感想・質問・意見等を書いてもらう。 ・ノートとプリントを集め、授業を終える。書き終わっていない場合は、一枚目はSHR時に回収することを伝える。 				